

複数の施設が集まり、社会包摂事業と研修を実施  
地域に広く意義をアピール

## 芸術×福祉 九州ネットワーク会議

### 福岡県国際文化情報センター(アクロス福岡)ほか13団体

**小牧 達彦** 公益財団法人アクロス福岡 事業部 事業グループ グループ長 / **添嶋 麻里** 同 芸術文化チーム ディレクター

**佐藤 奈々絵** 公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ グループ長 / **黒木 正美** 同 主任

**糸山 裕子** 福岡県立ももち文化センター 館長 / **王丸 あすか** 同 副管理責任者 事業担当

国際障害者交流センター ビッグ・アイ副館長の鈴木京子氏の呼びかけにより、令和3年に発足。令和5年度は福岡県、熊本県内の14団体が参加。知的・発達障がい児（者）に向けた劇場体験プログラム『劇場って楽しい!!』の実施を中心に、実践を踏まえた研修、情報交換を重ねている。一施設では難しい人材の育成を現場の職員が中心となって協働で行っており、個人・施設間の連携の強化や他施設への波及・啓発などの効果が期待できる取組である。

#### ●事業を始めたきっかけと変遷

令和3年度、国際障害者交流センター ビッグ・アイが福祉とアートの連携事業の推進に向けた事業を企画する中で、これまで社会包摂事業について相談されることが多かった九州地域での実施を検討。福岡では、福岡県障がい者文化芸術活動支援センター FACTがあったことから、アクロス福岡をハブ施設として実施したいとの提案がきっかけとなった。文化施設では熊本県立劇場、福岡県立ももち文化センター、宗像総合市民センター（宗像ユリックス）、大野城まどかぴあに参加を呼びかけ、11団体（文化施設5、福祉団体6）で活動を始めた。初年度はコロナ禍もあり、福祉施設のスタッフの事情などからオンラインで会議を進めていった。

2年目は、福祉団体が時間や距離の都合で参加が難しく、また、少しずつ「劇場って楽しい!!」自体の視察を希望される団体、劇場が増え「次回は自分のところのスタッフも入れてください」というお声が増えたりなどもあり、アクロス福岡が中心となって、文化施設を中心に継続していくこととなった。

3年目である令和5年度は、県の公立文化施設協議会に声がけをし、福岡県、熊本県を中心に14施設が参加し、大きな広がりになりつつある。

#### ●参加施設の参加理由

**熊本県立劇場**：1990年代に障がいのを対象とした事業を実施していたが、それが途切れてしまっていた。法改正や、全国公文協のアートマネジメント研修会での社会包摂関連講座の受講などを受け、取組を復活させる必要性を痛感していた。その後、九州地域アートマネジメント研修会等で社会包摂に関する研修や、令和元年度から知的・発達障がい児（者）に向けた劇場体験プログラム「劇場って楽しい!!」を先駆的に実施してきた。その一方で、劇場が社会包摂事業を行う意義の啓発活動に困難を感じており、この取組は、熊本県内だけでなく九州全体で活動を広めることができると感じて参加を決めた。

**福岡県立ももち文化センター**：指定管理者でもあるNPO法人としても、路上生活者等で構成されるダンスカンパニーの公演を行うなど長く社会包摂活動をしてきた経験があるが、熊本県立劇場と同様に、活動を広げることの難しさを感じていた。予算規模の小さな施設が細々とやっているのではなかなか広がらず、面にしていくためにはいろんな施設の方とつながるのがよいと思い、呼びかけに応じ参加をした。

#### ●事業の目的・意義

現在はノウハウの共有と連携を目的に「劇場って楽しい!!」というツールを使っているが、将来的には各劇場が独自の社会包摂事業を確立し、実施していけるようになることが目標である。

加えて、個々の施設の目的としては以下の通りである。

**アクロス福岡**：「社会包摂」については、アドバイザーを招き3つのプロジェクトチーム（社会包摂、ユニバーサルデザイン、広報）に分かれ全職員で取り組んでいる。これらのプロジェクトチームでの学びを実践として生かす場が「劇場って楽しい」となっている。この事業は、「スタッフ」「アーティスト」の育成も兼ねている。よって、事業終了後にすべての関わったスタッフ、アーティストによる振り返りの会を行い、事例の相談、情報共有を行う。この経験が、他の事業や、受付・販売等に活かされている。何度実施しても新たな発見と学びがある事業。今後も多様な来場者へのよりよい対応が自然に行えるように継続実施をしていきたいと考えている。

**熊本県立劇場**：ノウハウの共有に加え、複数施設が集まって事業を実施することで、社会包摂系の事業の経験のない館に対してインパクトを与え、事業を促したいと考えている。また、自館で事業の継続や、新事業の実施をする方法・形態を模索中であり、相談や協力をし合える横のつながりを事業に生かしたい。

**福岡県立ももち文化センター**：社会包摂事業に関する知識や経験の少ない職員に参加してもらうことで、基礎知識や他施設の状況を学ぶとともに、自館の事業を振り返る機会とすること、また、規模の異なる施設がそれぞれに取り組むことで、普及啓発につなげていくことも目的としている。

## ●活動内容

### 【令和5年度実施内容】

アクロス福岡で実施された知的・発達障がい児（者）に向けた劇場体験プログラム「劇場って楽しい!!」を核に、研修及び実習を行うとともに、参加施設の他の事業の実施状況の情報共有、知識の習得を行う。

- ①『劇場って楽しい!! 2023 夏 in アクロス福岡』開催に向けた事前学習（知的、発達障がいの特性、楽しみ方等について）など
- ②『劇場って楽しい!! 2023 夏 in アクロス福岡』（令和5年8月5日開催）運営/振り返り研修（7月6日）
- ③参加施設での社会包摂事業の事例報告/知的発達障害者センターの方による障がい特性の講義、対応方法のワークショップ（11月）
- ④社会包摂事業企画と運営プランニング（グループワーク）

### 【講師等】

国際障害者交流センタービッグ・アイ 副館長 鈴木京子氏を中心に、過去の研修の講師や関係団体などに講師を依頼し、実施している。また、オブザーバーの方等も意見をいただくようにし、ブラッシュアップを図っている。

## ●事業担当者の感想と周りの変化

・社会包摂事業に取り組んでいる他館の仲間とつながりができ、情報交換や相談のできる関係性が構築できた。何か困ったことがあったら、連絡をとって情報交換をできる環境を得たことが大きな収穫。

・実際の事業の運営をすることで知識、経験の蓄積に役立っている。また、研修後の振り返りも新しい知識を学ぶ機会となっている。

・これまで社会包摂事業に取り組んでこなかった施設の方で、この会議を通し社会包摂を初めて学び、「もっと早くから参加すればよかった」という声があった。また、参加者は、個人が希望して参加している方、施設側の意企により参加する方もいるが、いずれも「参加してよかった」と言って帰られる方が多いので、それぞれフィードバックして、自身の事業に展開していかけてくれるのではないかと期待している。

## ● 事業の共有と効果

**アクロス福岡**：「劇場って楽しい!!」を実施するにあたり、財団の中に、ユニバーサルデザインなど三つのプロジェクトチームが立ち上がった。それらを軸に社会包摂に事業を施設全体で進め、「劇場って楽しい!!」実施日は全職員が関わり、関心をもって運営にあたってくれている。部を超えて職員双方が学び合う、よい機会になっていると思う。また、アウトリーチ先の方が「劇場って楽しい!!」に参加してくれるなど、他の事業への参加も見られる。

**熊本県立劇場**：事業グループ7名で随時、情報を共有しているほか、県内のホールにも考え方やノウハウを共有し、視察の受け入れをしている。熊本県内は小規模施設が多く、単独開催は容易でないため、当館と共催で実施することを検討中である。いきなり単館で行うのは難しいので、共催で実施することでハードルを下げてやっていければと考えている。

## ● 自治体の評価

・福岡県：令和2年3月に「福岡県文化芸術振興条例」が制定された。社会包摂に関する条項が設定され、その一つ目の事業として「劇場って楽しい!!」を実施。県福祉課も協力的で、文化振興課からの評価も高い。県からも福岡市からも、今後も続けていくようにと言葉をいただいている。

・熊本県：劇場法制定後、県が熊本県立劇場運営方針を策定したが、障害者差別解消法制定や文化芸術基本法改正前であり、運営方針には当該活動に関して記載されていない。しかし、当館が社会包摂事業を継続してきたことにより、現在は指定管理者の仕様書にこういった事業が記載されるなど、県が必要性を認めていると感じる。法改正を反映した良質な事業を進めてきたことで、県の認識も深まっており、事業の継続につながっていることから、県からは高く評価していただいているのではないかと思います。

## ● 課題と今後の展望

### 【研修について】

・当会議の全体をレベルアップさせたいが、施設によってはより多くのスタッフにこの会議に参加させ勉強をさせたいという要望もある。ベースアップを目的とした研修内容とレベルアップを目指す研修と、研修内容をどう組み立てるかが課題である。

・これまでは受け身の参加だったが、今後は普及啓発活動や研修的プログラム等について当館からも提案し、一緒に検討していきたい。

### 【事業について】

・「劇場って楽しい!!」を県内の各地で実施していきたい。まずは地区単位でできたらよい。それが将来的に県民への還元となるのではないかと。また、「劇場って楽しい!!」の来場者からは、一般対象の事業にはまだ行きにくいと聞く。現在は一般対象の演劇にも来てもらえるという次のステップに向けた種まきの段階であり、そこに進むための中間ステップの事業を制作していく必要があるだろう。どのような事業や鑑賞サポートが適切であるかを検討していきたい。多様な取組を進めることでさまざまな事例が揃い、当たり前になり各会館が取り組むというような姿が、近い将来にできるとよいと思っている。

・自治体によっては、横並びを意識されているところもあるので、隣もやっている、右隣もやっている、左隣もやっているという状況になれば、自然と広がっていくようなこともあると考える。

・熊本県立劇場では、県内の各施設でこういった事業ができる体制をつくりたい。まずは当館が市町村の各館と連携して進めるが、将来的には各施設が取り組めるようになればと思っている。そのための第一歩は、各施設の職員がこういった事業を必要としている人がいること、お客様が多様であること、さまざまな鑑賞サポートがあることを知ることである。一般の方が多様性を当たり前を受け止めることが最終ゴールだとすると、劇場は寛容さを学べる場ともいえるだろう。そのような雰囲気づくりの先鞭を付けていきたい。

・民間事業者の方とも話をする機会ができてきた。民間でも社会福祉も考えながら事業をやっていかなければならないという話をするところがあるため、今後は民間業者やアーティストの方も巻き込み、さまざまな方と「社会包摂の事業とは」や「障がいのある方たちがよりよく参加できること」について話していけたらよいと考えている。

## 【「芸術×福祉 九州ネットワーク会議」事業データ】

開始年度	令和3年度
補助金	ビッグ・アイ 文化庁委託事業「障害者による文化芸術活動推進事業」（令和3年度） 文化庁文化芸術振興費補助金（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2）、独立行政法人日本芸術文化振興会 JAPAN LIVE YELL project（令和5年度）
参加団体	（令和5年度） テクロス福岡（公益財団法人アクロス福岡）／大野城まどかぴあ（公益財団法人大野城まどかぴあ）／大牟田文化会館（公益財団法人大牟田市文化振興財団）／岡垣サンリーアイ（公益財団法人岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団）／北九州市立黒崎文化ホール（黒崎ひびしんホール）（株式会社黒崎コミュニティサービス）／熊本県立劇場（公益財団法人熊本県立劇場）／シアターネットプロジェクト／なかまハーモニーホール（公益財団法人中間市文化振興財団）／福岡市文化芸術振興財団／福岡市民会館（株式会社福岡市民ホールサービス）／ミリカローデン那珂川（公益財団法人那珂川市教育文化振興財団）／宗像総合市民センター（宗像ユリックス）（公益財団法人宗像ユリックス）／福岡県立ももち文化センター（ももちパレスネットワーク）／ユメニティのおがた（公益財団法人直方文化青少年協会）（五十音順）
連携先	国際障害者交流センタービッグ・アイ、FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）
オブザーバー	大澤寅雄氏（合同会社文化 commons 研究所 代表・主任研究員） 樋口龍二氏（FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター））



8月実地研修 全体ミーティング



7月研修 車いす体験



11月研修

### 代表施設 福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）

所在地：〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-1-1  
福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）  
TEL：092-725-9111

設置者：福岡県

開館：1995年

管理者：公益財団法人アクロス福岡

規模：福岡シンフォニーホール（1,874席）／イベントホール（900席）／円形ホール（100席）

施設の特徴：国際・文化・情報の交流拠点。クラシック専用の福岡シンフォニーホール、国際会議場、多目的ホールのほか、福岡県の伝統的工芸品等を常設展示する匠ギャラリー、文化観光情報ひろばなど、多様な施設を備える。

ホームページ：<https://www.kpac.or.jp/>



アクロス福岡シンフォニーホール

※写真はすべてアクロス福岡提供